

小児科医になったころ、特に2歳以下の子どもさんのこちらを見る目があまりにも曇りがなく、きれいなので驚いていました。それに比べて私の濁った目！イヤになりません。

私は診察の際に子どもさんと目を合わせるのも苦手です。何しろ相手は全身全霊で目と耳を使い、こちらが畏怖の念を起すくらい、じっと「見る」のです。何事も図らず、「ただ生きる」まなざしです。

それに対して、私たち大人の「見る」という行為は、どうしても「計算」が加わり、私もキョロキョロしてしまっただいたい私が、子どもさん

一筆



小児科医

駒木智

2017.6.1

図ることと図らないこと

人の目を「曇りのない目」と意識した時点で、もう私の知性はうまく働いていないのです。

あの目を見ると子どもさんは純粋な存在だ、と思わざるを得ません。ただあまのじゃくの私はそういうことを書きたいわけではありません。

子どもさんは無邪気だけでなく、残酷でもあり、平気でひどくわがままなこともします。私にもスタッフにも、時々ひどい言葉を浴びせます。また時々噛みます。こちらら

傷つくのですが、子どもさんはわがままをしてもそのまま投げ出していますし、図ってはいないのです。そこがいいところですよ。

図らずも私は医者になり、たまたま小児科医になったのですが、20年以上たった今、自分の生き方を考えると満足していません。それも図らなかつたからなのでしょう。子どものように、その場その場でいいいくことも一興です。